

と報告、これに対し「意見を十分聞いてから採決を行なうべきであり、県民の意志を無視した審査だ」といった反対討論が野党各議員が行なった。討論終結のち採決にうつり、同請願は継続審査とすることに賛成多数で可決され、採択から一転して継続審査で審議の幕が引かれた。高浜入干拓事業は本来県と農林省が進めている事業であるが、結果的にはそれをめぐって四年間の定例会を通じ、自民対社会、公明、共産の対立がもつとも浮彫りされることになった。

：朝日新聞：：49・11・22

高浜入干拓中止請願

異例の再付託で継続審査

扱いめぐり粉糾

県議会最終日

請願めぐり弱点さらす

「解説」

自民党議員団は高浜入干拓事業に対し、党としての方針確認を怠り、議案内容の検討を個々の議員の「熱意」にまかせていたため、干拓中止の請願の扱いを、逆転せざるを得ないハメに追い込まれた。

高浜入干拓事業については自民党内にも「農家の経営

実態、霞ヶ浦の汚濁を考えると、いまや中止すべきではないか」と述べる議員が多い。しかし、統一方針を決めたことはない。個々の判断で意見を述べてきた。わずかに、すでに解散した県議会の霞ヶ浦総合開発調査、水資源対策特別委のなかで「推進」の立場を示したことはある。

また、請願審査に当って「よく内容を検討していない」と認める議員も多い。内容を知らずに紹介議員となつてゐる例もある。干拓中止の請願も、土浦市選出の自民党議員二人が紹介、採択を決めた農水委は十人中八人が自民党。

：読売新聞：：49・11・22

農水委採択の高浜入干拓中止請願

県会本会議で「差し戻し」

自民が押し切る

総務衛生委経て「継続」に

自民党内にも再検討の意向

「解説」

来月十五日の県議選を控え、現職議員が出席する最後の県議会は、二十一日波乱のうちに閉会したが、農林省の県議の推進する高浜入干拓事業をめぐり、はからずも自